

## 再認識したい沖縄語の特徴（3枚）

共通語との分別で言語素養を豊かに

2007年10月1日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語は共通語と深い関係にありますが、共通語の下に位置するものではなく、共通語と同格・対等の一つのまとまった言語です。過去には沖縄語から共通語に移っていく過程で、沖縄語的な共通語の言い方は誤りとされました。沖縄語としては間違っていないのに、共通語の中で言うから間違いというものです。

過去、共通語の中で誤りとされた沖縄語的な言い方や、共通語と似て非な沖縄語、あるいは共通語の中で誤解され易い沖縄語は、今はむしろ沖縄語の特徴として進んで沖縄語教育の中で取り上げ、共通語との分別をよくし、転じて沖縄語の新しい魅力として身につけてこそ、より豊かな言語素養になると思います。沖縄語は沖縄語として考えましょう。

常に、言ったり書いたりしている言葉が、沖縄語としてか共通語としてかをはっきり意識することが大切です。

以下、沖=沖縄語、共=共通語、として沖縄語教育で教えたい身近な口語を、幾つか例示します。沖、共の同じ部分と違う部分をはっきり理解することが大切です。

### 1、沖「ちゅーん」共「くる」共「いく」・・・語義の対応はあるが重ならない部分がある。

「ちゅーん」には「来る」のほかに、「行く」の意味もあります。東京にいて沖縄の友人に「沖縄んかいちゅーん」というのは、沖縄語としては正しい言い方です。「ちゅーん」を「来る」と訳して共通語で「沖縄に来る」というと、東京でいう共通語としては変に聞こえるものです。「ちゅーん」を「行く」と訳せばよいのです。「ちゅーん」は英語の come と似たところがあります。

### 2、沖「くるすん」共「こらす」共「ころす」・・・音韻の対応があるが対応が二義になっている。

「くるすん」は「懲らす」共「殺す」の二義あり、意味に重大な違いがあるので、沖縄語で書くときは、漢字で意味に応じて「<sup>く</sup>懲らすん」または「<sup>く</sup>殺すん」とすれば誤解は避けられると思います。

### 3、沖「やま」共「やま」・・・音は同じだが意味が違う。

「やま」の沖縄語としての意味は、木々の茂った所をいい、地面の高さには関係ありま

せん。平地でも木々が茂っていれば「やま」であり、地面の高まりでも草木が生えていなければ「やま」ではありません。

「やま」の共通語としての意味は、主に高くなっている所や物のことです。地面の高まりは正に「やま」です。高ければ草木がなくても「やま」です。

「やま」の漢字は沖縄語、共通語ともに「山」を使っています。

4、沖「にし」、共「にし」・・・音は同じだが意味が違う。

沖縄語の「にし」は「北 (north)」を意味します。共通語の「にし」は「西 (west)」を意味します。

沖縄語の「にし」を漢字でどう書くか、これまでは「西」と「北」が混用されています。「西原町」、「西之平」などは首里城の北側に位置するからといわれます。「北(にし)」の表記もかなり見られますが、翻訳書法と思われます。

沖縄語の中で「西」と書いて「にし」と読ませ、北を意味するというのは、沖縄語の中で「山」と書いて「やま」と読ませ、木々の茂った所を意味するというのと同様で、沖縄語を沖縄語として考えるものです。

5、沖「なちかさん」、共「なつかしい」・・・音韻は対応しているが意味に注意。

「なちかさん」は一般に「悲しい」、「嘆かわしい」の意味のようです。

「なちかさん」は大和言葉の「懐かしい」から来た言葉であったが誤用によって「悲しい」の意味になった、という説があります。(高良盛亮編著「琉球方言のすがた」68 頁、1987 年)「なちかさん」を「懐かしい」の意味で使う人もいますが、少ないようです。

「懐かしい」の意味の沖縄語には「あながちさん」があります。言葉は語源とは別に、言う側と聞く側が同じ意味を授受して初めて通用するものです。多くの人に通用する言葉が正しいとされます。筆者の体験では「なちかさん」は「悲しい」、「嘆かわしい」が口語の汎意と思いますが、上の事情も考慮する必要があります。

6、沖「むい」、共「もり」・・・音韻は対応しているが意味が違う。

沖縄語の口語の「むい」は地面などの盛り上がったところをいいます。

共通語の「もり」は盛り上がったところを指す場合と、木々の茂ったところを指す場合があり、この二つは同音異義の別の言葉です。共通語では前者には「盛」、後者には「森」の漢字を当てています。

沖縄語の文語で「むい」に「森」の字を当てている場合がありますので、その意味にはよく注意する必要があります。共通語の「森」に当たる沖縄語は「やま(山)」です。

7、沖「かー」、共「かわ」・・・音韻の対応はあるが意味が違う。

「かー」は水の湧く所、泉などを指します。樋で引いて流れ出るものもいいます。

「かわ」は水の流れをいいます。給水源の総称との説もあります。

「かー」に当てる漢字は、井、井戸、川など幾つも使われています。

「かわ」の漢字には、川、河があります。

8、沖「から」<sub>よ</sub> 共「から」<sub>ん</sub>・・・(助詞)音韻、語義の対応はあるが重ならない部分がある。

沖縄語の助詞「から」は、出発点や基点や元を意味する場合と、動く場所や手段をいう場合があります。

共通語の助詞「から」は、出発点や基点や元を意味しますが、動く場所や手段は意味しません。

(比較例) 沖: <sup>とぅい</sup>鳥 <sup>ていん</sup>ぬ 天 から <sup>とぅ</sup>飛ぶん。 共: 鳥が空を飛ぶ。

9、沖「あっちゅん」<sub>ん</sub> 共「あるく」<sub>ん</sub>・・・音韻、語義の対応はあるが重ならない部分がある。

「あっちゅん」は「歩行する」を含め「移動する」<sub>ん</sub>「動く」<sub>ん</sub>「の仕事をする」<sub>ん</sub>「してまわる」<sub>ん</sub>「ばかりしている」<sub>ん</sub>「元気である」など、かなり幅広い含みのある言葉です。「動く」が原義のようです。「元気である」は自分を巡る事情がうまく動いている様子の一つの表現と思います。独語の gehen と似たところがあります。

共通語の「あるく」は「歩行する」<sub>ん</sub>「してまわる」など、沖縄語の「あっちゅん」の語義より狭いように思います。「飲みあるく」は「飲みながらあるく」と違います。

以上のほか、「あわていゆん」 - 「あわてる」<sub>ん</sub>「あさばん」 - 「あさはん」<sub>ん</sub>「くち」 - 「くち」など、沖縄語と共通語の分別を意識したい言葉は幾つもあります。

(以上)

沖縄語に関する筆者の2007年以降の全論文はWeb上にあり、  
<http://www.wvq.jp/p/fpapers.html> から自由にダウンロードできます。

照会先：〒1870002 東京都小平市花小金井2 - 6 - 1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp